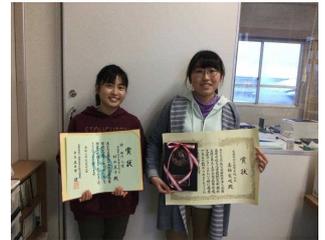




## 第35回全国高等学校文芸コンクール入賞！

俳句部門：優秀賞/全国文芸専門部会長賞（全国二位）



『万愚節少女嬉々とし語らう目』

このような賞を頂き、とても嬉しく思います。その字の如く、担ぐ方も担がれる方も皆「愚」となる日を題材にしました。しかし、見え透いた嘘を真面目になって考えた少女に、優しく騙されてあげる母親だけが「愚」を免れると思います。そんな母親の目線から詠んだ句ではありますが、読み手によって解釈が異なるということも知り、また一つ俳句の魅力を知ることができました。これからも創作活動に注力していきたいと思います。

（3年4組 高橋梨咲 鳴子中学校出身）

詩部門：入選「独りぼっちの夜に」（全国十七位）

まだ入部したばかりの私が書いた作品がこんなに大きな賞をいただけるとは思っていませんでした。本当に驚きました。今回賞をいただいた作品は、コロナ禍という特殊な環境の中、目まぐるしく変化する日々の中で思ったことを率直に書きました。思いついたことをあまり吟味せず書いてしまったのですが、その勢いを評価していただけたのかなと思います。もっと良い作品が書けるよう、これからも頑張ります。

（1年3組 村山真子 若柳中学校出身）

## 東北大会に出場して！

### 囲碁将棋部

東北大会に参加して思ったことは、今までの大会と異なり団体戦であるという点でした。もし、自分が負けたら他の二人に迷惑をかけるという思いが常に頭をよぎりました。けれど、宮城県代表チームとして出場した他の二人とは、以前の大会で対局したことがあり、自分よりも棋力が上であることが分かっていたので、とても心強かったです。今回は、対局時間が短かったのもとても焦りましたが、大きなミスをしなかったため、三将として出場し、全勝することができました。その結果、団体戦で第二位となり、とてもうれしかったです。来年の3月には、個人戦で全国大会に出場します。頑張って結果を残したいと思いますので応援してください。

（1年1組 菊地優花 田尻中学校出身）

### ソフトボール部

私たちソフトボール部は10月24日、25日に、岩手県石鳥谷町で開催された東北大会に出場してきました。1回戦は盛岡中央高校と対戦し、乱打戦を制して勝利することができました。準決勝戦では、強豪の郡山北工業高校と対戦し、0-6の完封負けを喫しましたが、結果としては第三位となりました。今回の大会では、チームとしての多くの課題を見つけることができました。それらを今後の練習で1つ1つ克服して、我々の目標であるインターハイ出場につなげたいと思います。最後に、今大会の出場に当たり、多くのご支援をいただいた皆様に感謝申し上げます。（2年6組 平塚尚大 不動堂中学校出身）



### 陸上競技部

私は、県新人大会を経て、棒高跳競技の県代表として東北大会に出場しました。陸上部に入部したときから、棒高跳競技で、東北大会に出場するという目標を立てて練習に取り組んできました。今回それを実現することができ、とてもうれしく思いました。いつもご指導くださった顧問の先生や外部コーチ、練習に協力

してくれた部員の皆さんのおかげだと感謝しています。東北大会では、上位の選手たちの跳躍を見て、技術の違いや競技に向かう姿勢の違いをまざまざと見せつけられ、とても多くの刺激を受けることができました。来年も同じ舞台に立ち、ベストパフォーマンスができるように日々努力していきたいと思います。

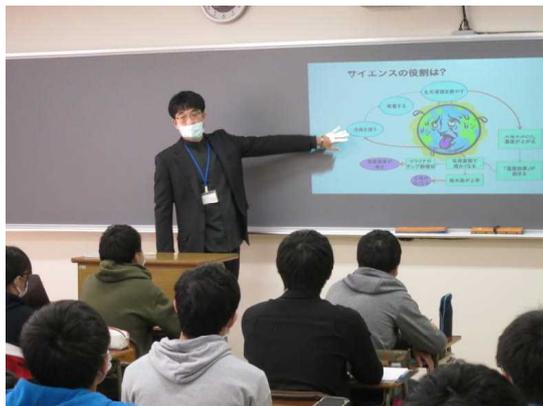
(2年5組 塚部真理子 古川黎明中学校出身)

## 大学出前講座実施！！

去る10月27日に毎年恒例の1・2年生を対象とした大学出前講座を実施しました。今年は新型コロナの影響で実施が危ぶまれましたが、各大学にご協力いただき、計画どおりに実施することができました。今年は9大学から14名の先生方をお招きし、午前と午後の2回、幅広い分野の講義が行われ、参加した生徒も皆熱心に受講していました。例年ならば各大学のオープンキャンパスに出向いて、直接大学の模擬講義を受講する機会がありましたが、今年は今回が、大学の講義を聴く最初の機会という生徒がほと



んどで、受講後の生徒の感想は概ね好評でした。今回最も受講希望生徒が多かった講義は、尚絅学院大学心理・教育学群の行場教授による「様々な錯覚現象から知る基礎心理学の面白さ」でした。「視覚が人の感覚に非常に大きな影響を与えることがわかり、人の感覚に関するより深い理解に繋がった。」「聴覚や視覚によ



って起こる錯覚が、自分の身の回りでも起きていたことがとても面白いと思った。」などの感想がありました。また、東北大学工学部の福島教授による「科学技術のシステム化で気候変動に立ち向かう」の講義では、「地球規模の問題も必ず因果関係があり、私たちはその原因を改善していかなければならないのだと思った。」など、講義を受けて深く考えさせられたとの感想が多くありました。このように1・2年生は今後の進路志望先の決定に向けて大いに刺激を受け、有意義な行事となりました。

## 古高祭・体育祭を開催して！！

例年、三日間開催される古高祭。しかし今年は新型コロナウイルスの影響で一日だけの開催となった。さらに、例年はない制約が多くある状況で、いつも通り楽しめるのか多くの試行錯誤があった。過酷な状況ではあるが、しっかりと楽しむことができた古高生も多かった、実りのある古高祭だったと言える(と思う)。さらに体育祭も、新型コロナウイルスにより例年の球技大会方式ではなく、運動会形式を採用した。やはり初の試みが多く、運営や盛り上がりについて不安があった。しかし当日は、1・2年生は勉強と部活動から、3年生は受験勉強から解放されたかのような盛り上がりを見せ、締めくくることができた。



特別な体育祭で繰り広げられた戦いは、古高生の絆をより一層深めることができた。体育祭の終了後には、打ち上げ花火を行った。まるで、漫画や映画の世界のようだった。文化祭と体育祭の実行委員長二人で花火の点火をさせていただいた。人生で一度あるかないかの貴重な体験、忘れられない青春の1ページとなった。(3年1組 江畑姫佳 志波姫中学校出身、3年3組 田口夏鈴 不動堂中学校出身)